進捗報告書 （資金分配団体）

事業名:	こども食堂への包括的支援事業
資金分配団体:	特定非営利活動法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
実行団体数:	5団体
実施時期:	2020年　11月～2021年 10月
事業対象地域:	全国
事業対象者:	地域ネットワーク団体を通じて、こども食堂運営団体と、 それを利用する生活困難家庭の子や保護者

Version 1.0

日付： 2021年7月31日

Ⅰ．事業概要

事業概要
当団体がすでに発表している「新型コロナウィルス対策緊急プロジェクト第三弾（5月22日）」のこども食堂支援パッケージを実践する各県のネットワーク団体もしくはハブとなる中核団体に対する助成を行う。具体的には、①こども食堂が居場所の提供と食材配布（フードパントリー）双方を行うための両立支援、②休止していたこども食堂に対する再開支援・新規立上げ支援、③運営者が孤立しないためのピアサポートの促進、④食材・物資・資金の仲介、による物心両面の支援を行うことで、ウィズ・コロナとも言われる不安定な移行期にこども食堂が厳しい状態にいる子や家庭を支え、さらにはアフターコロナに向けて災害に強い地域の下地づくりを行う。

Ⅱ．進捗報告の概要

総括
コロナ禍での事業実施は、当初計画通りにいかないこともあったが、企業からの支援増加、行政等連携推進、ひとり親等支援が必要な世帯とのつながりができた、新規立ち上げが目標に達する見込みなど、その適応力と柔軟性こそが、こども食堂の強みの一つでもあると実感するほど、各地、地域の状況に応じながら事業推進している。そして、新たなつながりができたことで、企業との連携促進のための横断の交流会の構想や食支援方法、重点支援の対象年齢を広げるなど事業内容の改善提案が議論されている。さらには、企業連携、フードバンク、行政連携について、他の団体は、どうしてるの？という問いが生まれ、毎月、横断でのランチミーティングを実施することになり、有機的な連携が生まれている他、実行団体から、各種MTGや交流会へのお誘いが増えた。当団体は、実行団体の5団体が、地域の事情を捉え、地域に望まれる事業を推進できるよう、定期MTGや個別相談、情報提供などを継続的に行っていく。

Ⅲ.活動実績

資金支援

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態 ）	進捗状況
①実行団体の活動する県で、居場所提供とフードパントリーの双方を実施するこども食堂が3箇所以上出る。②こども食堂のスムーズな再開と新規参入により、コロナ以前よりも県下のこども食堂数が増加する、③それらの活動により受益者となる子と世帯の数がそれぞれ5万人、2万世帯に達する。④企業等からの支援の仲介や連携事業が増加する。	①～④の事業はほぼ計画通り ①：実行団体5団体の実施は合計68か所（内、事業実施期間におけるアドオンは32か所）居場所実施の予定をしていても活動地域で感染者が出ると食材配布活動に切り替え等を行なっており、継続した実施についての把握は、状況を踏まえつつやっていく必要がある。 ②：実行団体5団体の事業実施期間における新規立ち上げは合計50か所 新規立ち上げは、各地で概ね順調だが、再開支援については、地域との繋がりが強く長く活動している団体こそ、再開しずらい（地域の声が気になる。）状況の報告もある。 ③：実行団体5団体の合計参加者数は21,330人、内こどもは9050人。世帯数は約7900世帯で目標値を下回る水準。 ④：実行団体5団体の企業連携は合計633社（内、事業実施期間におけるアドオンは494社）

実行団体名	進捗状況	概要
一般社団法人さが・こども未来応援プロジェクト実行委員会	ほぼ計画通り	目標とする３０団体への支援という点では、すでに半年で達成している状況である。現在定期開催をしている県内居場所３０－４０団体に対して、毎月１回以上の仲介支援情報の提供と実行をしているためである。下半期にむけてその量質の拡充を図るよう、更なる支援者開拓と、居場所ニーズの確認を通じて、仲介件数をあげていく計画である。コロナ禍における県内居場所への緊急支援として、事業を開始し半年経過したが、計画の「食材・物資・資金等の資源仲介支援」については、目標対比５０％程度の進捗と予定通り実行できたと考えております。県内企業やむすびえを通じた全国企業からの「食材・物資」の寄付の機会をタイムリーにとらえ、同時に県内居場所へも情報をすぐに届けることで、事業開始前よりも多くの仲介支援ができていると感じている。「資金」についても主幹団体である公益財団法人との連携での寄付集めも実施できた。 一方で、もう一つの目標である居場所の再開支援策としての外部会場での居場所開催については、１件のみの実施しとなっている。下半期にむけた課題解決として、再開支援の幅を広げ、コロナ禍での通常会場での居場所開催や、宅食・フードパントリーなどへの支援など多くの施策を実施する予定である。
社会福祉法人青森県社会福祉協議会	ほぼ計画通り	全体として７割程度の進捗であるが、感染状況が収まらないため、予想していたよりも進んでいない取組もある。本会が単独で実施するような取組が無いため、運営者側のリスク意識の問題などに左右されることも大きな要因の一つ。一方で、ここまで感染が長引いたこともあり、新たな課題や取組方法なども見えてきており、ニーズに柔軟に対応していくことの必要性も感じられる。 ①新規立上支援は、12ヶ所の相談を対応 ②既存の子どもの居場所に10ヶ所程度訪問対応 ③こども宅食の実施など4地区対応
諏訪圏域子ども応援プラットフォーム	ほぼ計画通り	事業実施当初は、メンバーが不慣れなこともあり、登録団体への訪問や聞き取りも思うように実施が進まなかったが、毎週のオンラインミーティングを行い、状況を話し合って進めている。これまでの情報発信のみでの活動より、訪問することで、各団体とのつながりが深まり、食材などの配布件数も増加した。コーディネーターの訪問による効果を実感してきている。 今後も継続し、各団体の連携に加えて、企業などとの連携も深めていきたい。
特定非営利活動法人山口せわやきネットワーク	ほぼ計画通り	①パントリー両立支援②市町・社協との連携強化③福祉専門家と連携づくり④学習支援の増設 ①～③は「県下一斉パントリー」で、県内のこども食堂が一斉にパントリーに取り組み、経験を積むことで、自分たちのこども食堂での実施のノウハウと関係機関等々の連携、ネットワークを構築する。このパントリーを市町や社協と共に実施し、さらに福祉関係者から支援が必要な家庭へ呼びかけることで、こども食堂とのつながりができる。学習支援の実施個所は現在、呼びかけの最中。事業自体は、ほぼ計画通りだが、資金計画は当初予定から変更になっており、修正。
一般社団法人フードバンク八王子	ほぼ計画通り	（1）むすびえからの紹介もあり、ご寄付下さる企業・個人の数は着実に増加した。またHPの更新作業は現在準備中。（2）困窮家庭への食料配送は（今回の事業範囲外だが）3月に実施し、これから7月（更に10月）に実施するために現在準備中。（3）東京都立大学へは継続的な食糧支援を実施（食料費は八王子市からの補助金）しながら、拓殖大学などの学内HPに情報掲載して頂き、学生に対しては個別に食糧支援を実施中。（4）5月までに二回の研究会を開催し、今後も続行予定。（5）個々の食堂からの情報を収集して現在作成中。全体としていえば、再度の緊急事態宣言や我々の不手際ゆえの遅れは生じつつも、着実に進行中。

非資金的支援（資金分配団体の伴走支援活動）

活動	進捗状況	概要
企業・団体からの支援仲介	ほぼ計画通り	JANPIAからの企業仲介もあり、吉野家、ライオン、イオン、KFC、大和リース等の企業支援を実行団体に連携することができている。引き続き、各団体の事業を後押しできるよう積極的に企業支援を繋いでいく。
ファンドレイジング研修	ほぼ計画通り	ファンドレイジング力向上のための研修を実施。また、企業支援を獲得するための参考情報として、むすびえが企業向け説明資料として活用している提案書も提供している。
評価研修	ほぼ計画通り	評価に関する研修を実施。ファンドレイジング研修と同時にすることで、その学びをより連動性を持って捉える機会になっている。また、どういう状態を生み出したいのか、そのためにどんな活動が必要かという視点での会話がなされており、会話の質からもその効果を実感している。
情報支援	ほぼ計画通り	定期MTGを実施することで、各実行団体が困っていること、必要としている情報をタイムリーに提供することができ、それに応じた情報提供を随時行なっている。具体的には、見守り支援事業、ヤングケアラー支援、学校に行きにくい子どもへの居場所情報、各種調査結果の提供などを行なっている。引き続き、各団体が必要だろう情報をタイムリーにキャッチしながら、情報連携を進めていく。

Ⅳ. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
当団体既存事業と複合的に事業を行い、人々がこぼれにくく、かつ、災害に強い地域を全国につくるという目標に対して、各実行団体の地域住民・事業者・行政等とのつながり、課題の発見力、寄り添い支援などの実績から、十分に目指す状態を実現できる手応えを感じている。特に、気になる子ども、世帯とのつながりから、同様のケースは他にもあるという前提で、中高生への支援、大学生への支援等、地域の状況を踏まえながら事業展開・推進していく力、また、その支援のために関係機関とつながろう、連携しようという気持ちが強く、さまざまな工夫でそのアプローチが実施されており、万が一の災害時に発生する緊急事態に対して適応できる力が十分発揮されている。一方で、相互の理解不足や予算主義等による本来事業ではないため、連携ができていない地域の状況も見えてきており、現場の活動実績づくりを後押ししながら、地域での連携が促進されるよう、当団体も情報連携、エンパワメント等を実施していく。

Ⅴ．インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	実行団体への助成に充当される費用	¥21,264,000	¥11,592,000	¥32,856,000	¥29,769,540	91%
	管理的経費	¥1,900,000	¥1,100,000	¥3,000,000	¥1,644,864	55%
プログラム・オフィサー関連経費		¥580,000	¥580,000	¥1,160,000	¥516,999	45%
合計		¥23,744,000	¥13,272,000	¥37,016,000	¥31,931,403	86%

補足説明	

Ⅵ. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
コロナ収束の見通しがつかない状況が続く中で、食材等配布のフードパントリーの活動が各地で実施されている。その活動が長期的になったことで、「居場所」の重要性やそのあり方について、各地で見直されている状況。そのため、ワクチン接種も進みつつある中、政府からの通知を促すなど、「居場所」再開に向けた後押しを当団体も検討を重ねているが、この半年、居場所再開がなかなかしずらい各地の状況は、こども食堂運営者、地域ネットワーク団体を疲弊させ、活動推進のリスクになり得ている。尚、コロナ禍において実行団体の面談は基本オンラインで実施してきたが、半年を経ての振り返りのタイミングで４団体を訪問しリアル対面での面談を実施した。組織内部のメンバー間の関係性、活動エリアの地域性、むすびえ への期待等一歩踏み込んだ本音など、オンラインミーティングでは把握できなかった情報が満載で意義深く貴重であったと思うと同時に、オンラインでは組織や活動を緻密に洞察していく上での情報量が圧倒的に不足するリスクがあること感じている。テーマ別に５団体横断でフリートークをするランチミーティングの開催やチェックイン等、会議本題以外のコミュニケーションを大切にすることで、様々な情報の取得をすることとしている。

Ⅶ. その他

自由記述
本事業での伴走支援の経験を生かし、自団体の助成事業で初めて伴走支援つきの助成事業を行うこととした。それは、当団体が中間支援組織として、伴走力を高めていくことは、こども食堂の全国支援センターとしての機能を強化し、伴走支援力の強化が「こども食堂の支援を通じて、誰もとりこぼさない社会をつくる」というビジョン達成の駆動力となることを実感したためである。そして、団体内部で複数関連したプロジェクトが実施されているが、横断での全体会議を実施する予定であるなど、休眠預金をテコとした事業推進をはかっている。さらには、ハラスメント研修の実施や相談体制の構築など、団体のガバナンス・コンプライアンス体制も強化がなされていることは、休眠預金事業を受託できた大きな成果である。

Ⅷ. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	有	大和リース https://www.daiwalease.co.jp/csr/smile/action/index.html JANPIAの休眠預金活用サイト https://kyuminyokin.info/articles/40 【子どもたちに音楽をとどけるプロジェクト～春と音楽を楽しもう！in八王子オーパ】開催のご報告 https://musubie.org/news/3252/
広報制作物等	無	
報告書等	無	

Ⅸ. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	2020年度理事会、通常総会を定款の定めの通り実施した。
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
5. コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。	はい	